

令和7年度

城東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

夢に向かって、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成

校長

榎本 孝裕

学力向上推進員

富崎 美幸

【小中連携における共通の取組】

語彙力の育成

【各校の取組状況の把握について】

各校の授業参観や学力向上コラボレーション事業を通して把握する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●学力の個人差が見られる。 ●学習の積み重ねが不十分な児童がいる。	・どの児童も基礎・基本となる学力が定着している。 ・語彙を広げ、自分のものとして活用することができる。	・学力調査やステップアップテスト、学級で行っているテストから児童の学習状況を把握する。 ・朝のスキルアップタイムの時間等を使い、ドリル学習やプリント学習、ICTを活用して基礎・基本となる学力が定着するようにする。 ・「語彙力の育成」をテーマに中学校区で連携し、情報交換や合同研修を行う。 ・読み聞かせや作文指導等を通して、たくさんの言葉に触れる機会を意図的に設ける。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを他者を意識して伝えようとする児童が比較的多い。 ●自分の伝えたいことを正確に伝えることが難しい児童がいる。	・相手の話をしっかりと聞き、相手や目的に応じて自分の伝えたいことを正確に表現し、伝えることができる。 ・多様な表現方法から選び、効果的な伝え方ができる。	・子ども同士の対話の機会を増やす。理由や根拠を児童に問いかける場面を増やし、伝える力が向上するように努める。 ・多様な表現方法を知らせ、その中から児童が選んで表現できるようにする。 ・他者の意見を認め合える温かい学級経営を行い、自分の考えが言いやすい雰囲気づくりに努める。 ・他者に自分の意見を伝える経験をさせるために、話し合い活動を児童主体で進められるように支援する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して真面目に取り組もうとする児童が多い。 ●学習に対して受け身になってしまい、自分で学習課題を見付けたり、学習を自己調整したりすることができていない児童がいる。	・見通しをもち、自己調整力を発揮して、学習を進めることができる。 ・めあてをもとに学習に取り組み、学びをふり返ることで、その学習の成果や課題について自覚することができる。 ・自分なりの課題解決の方法を見付けることができる。（既習事項を活かすことができる。）	・児童相互で関わり、学び合う機会を意識的に取り入れていく。 ・毎時間の学習のふり返りを充実させる。ノートに書く・挙手して発表する・友達と話し合う・ICTを活用するなど、多様なふり返りの機会を設ける。			